



まったりビーバーの暮らし

とある湖畔に家族のビーバーが居りました。

とても呑気で

おっちょこちょいで

のんびりとした

ビーバーです。

いつものように

お父さんとお母さんは

堰の

水漏れが無いか

見回っていました。

お父さんがあることに気がつきました

微かに

水の流れる音が聞こえてきました。

いつもは、おっとりとしたビーバーが

堰の決壊は一大事なので

お父さんとお母さんは協力をして

丸太や小枝や木の根や小石や泥などを運んで

修復しました。

ひと段落して

ほっと一息食事時になりました。

木の葉や樹皮、小枝、水生植物などを食べています。

家に持ち帰り食べる時もあります。

その時は食事として食べる時もあるし

保存食になる場合もあるし

家の補修や修繕の材料にもなります。

補足

後ろ足には水かきがあり、泳ぎや潜水が上手です。

尾っぽは、平らで広く、驚いた時などは、水面を尾っぽで叩くことがあります。

これは、大きな音を立てて仲間に警告をしているのだろうと考えられています。

木の枝や泥、石で流を塞ぎ止めて作るビーバーの「ダム」が有名です。

「ダム」の中にはいくつかの部屋が作られ、家族を中心とする群れが暮らしています。